

にっぽんご かきかた (3)



(上段)

も く じ

おはよう
がつこうで
雨ふり
けんちゃん
ことばあそび
二ひきの 子がに
につき
風
とけい
音
声
組合
ひらがなと かたかな

ひつじかいと おおかみ
じしゃく
マンジオカの はなし
あいうえおの うた
手がみ
日の かきかた
かにも なった ごんべえさん
かんじの はいった ことば
ならった かんじ

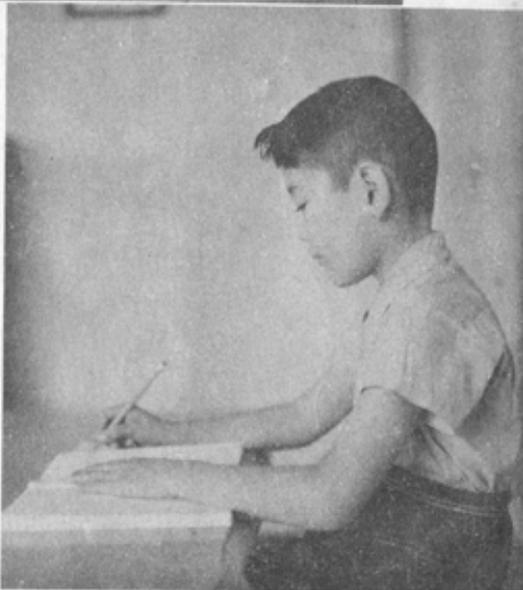
(下段)

一、よい しせいで、おちついて
かきましよう。

二、えんぴつの もちかたに、き
を つけましよう。

三、てほんを よくみて てい
ねいに かきましよう。

四、ほかの ちようめんや かみ
にも、れんしゆう しましよう。



学	学	学	先	先	学	学
校	校	校	生	生	校	校
先	先	先	の	の	の	の
生	生	生	声	声	に	に
音	音	音	に	に	わ	わ
合	合	合			で	で
雨	雨	雨	合	合	な	な
天	天	天	わ	わ	わ	わ
気	気	気	せ	せ	と	と
			ま	ま	と	と
			す	す	び	び

礼	礼				田	田
て	て	お	お	先	先	中
		は	は	生	生	先
き	き	よ	よ			生
て	て	う	う	お	お	に
		。	。	は	は	
あ	あ	一	一	よ	よ	あ
げ	げ	年	年	う	う	い
た	た	生	生	。	。	ま
の	の	を	を			し
ね	ね					た
。	。	つ	つ			。

えんぴつを ただしく もって かきましよう。

いそがずに
かきましよう。

ど	ど	歩	歩	か	か	ぼ	ぼ
ろ	ろ	き	き	ら	ら	く	く
水	水	ま	ま	だ	だ		
を	を	し	し	を	を	平	平
		た	た			気	気
と	と	。	。	よ	よ	だ	だ
ば	ば	じ	じ	せ	せ	よ	よ
し	し	ど	ど	あ	あ	と	と
て	て	う	う	っ	っ		
い	い	車		て	て	い	い
っ	っ	が	が	、	、	っ	っ
た	た	、	、			て	て

半	半	マ	マ	雨	雨	で	で
分	分	リ	リ	が	が	ん	ん
		オ	オ	ひ	ひ	車	車
ぬ	ぬ	さ	さ	ど	ど	ど	ど
れ	れ	ん	ん	く	く	り	り
て	て	、	、			に	に
		せ	せ	な	な		
い	い	な	な	り	り	出	出
る	る	か	か	ま	ま	る	る
よ	よ	が	が	し	し	と	と
。	。			た	た	、	、

しせいを
ただしくして
かきましよう。

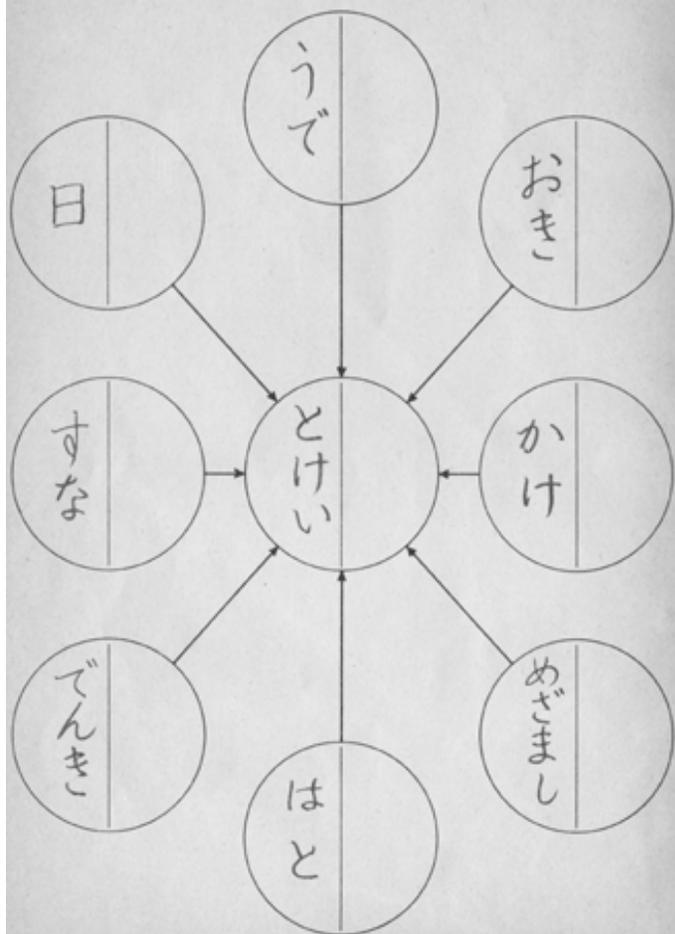
よんでから かきましよう。よめないじが あったら ききましよう。

雨ふり。	いの字あそび。	青く広い。空。	白いくも。	花が赤い。	長い汽車。	夏と冬。	せいが高い。
雨ふり。	いの字あそび。	青く広い。空。	白いくも。	花が赤い。	長い汽車。	夏と冬。	せいが高い。

走
走
走
回
回
回

わ	わ	い	い	け	け
あ	あ	ま	ま	ん	ん
っ	っ	し	し	ち	ち
と	と	た	た	や	や
		が	が	ん	ん
な	な			は	は
い	い	こ	こ		
た	た	ろ	ろ	走	走
		ん	ん	り	り
		で	で	回	回
				っ	っ
				て	て





風

だれが 風を 見たでしょう。

あなたも ほくも

見やしない。けれど

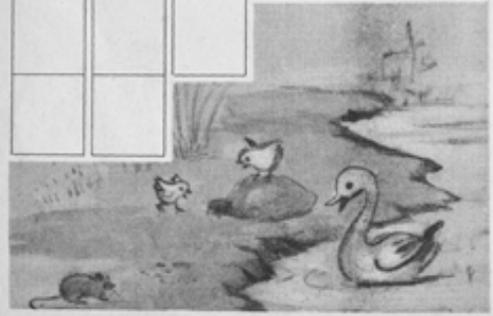
木立が あたまを さげて

風は とおりすぎて いく。

風という じを しっかり おぼえましょう。

犬 やぎ ひよこ あひる ねこ 小どり ねずみ

犬	やぎ	ひよこ	あひる	ねこ	小どり	ねずみ
牛						



なきごえを かきいれましょう。

とけいは	うまは	かみなりは	くつ音は	ふえは	かねは	じどうしやは

かたかなは まっすぐな せんで かきましよう。
 あいて いる ところに 音を かきいれましよう。



ひらがなと かたかなの かきかたの ちがいを おほえましょう。

ひらがな。カタカナ。

にっぽんご。ブラジルゴ。

やわらかいじ。カタイジ。

まるくかく。トガツテカク。

も	か	ろ	村
大	い	う	の
声	の	と	人
を			た
	子	思	ち
た	ど	い	を、
て	も	ま	だ
ま	は、	し	ま
し		た。	し
た。	な	ひ	て
	ん	つ	
	べ	じ	
	ん	じ	や

字の大きさをよくみましょう。

手がみの れんしゅう。びんせんにも かいて みましよう。

きのう、おじさんたちと いっしょに、ふねに
行きました。日本の ふねで、大きな ふねです。
中には 広い サロンが、いくつもありました。
きれいな しょくどうも ありました。
あしたは、サントスの 町を けんぶつします。
かいがんに 行くのが たのしみです。

七月七日

よしえ

ローザさん

目は はなして かきましよう。

いちど よんでから かきましよう。

田中先生。学校。二年生。雨の音。

半分歩く。平気。広い空。長い夏。

冬の花。高い糸。貝と虫。林の風。

台を作る。夜は休む。村の組合。

馬の前。町の品。黒い色。国の名。

何千何百。竹を引く。形を切る。

神さま。毎日。南の土地。秋の野。

一生。北の森。自分。正じきな男。

ただしい しせいで かきましよう。

かんじ れんしゅう。

光	北	形	色	台	冬	步	田
外	森	切	千	夜	高	半	先
見	自	友	何	休	糸	分	生
声	正	男	百	組	貝	平	年
力	口	神	国	行	早	回	学
本	夕	毎	名	村	虫	字	校
火	走	今	竹	会	少	空	音
白	目	太	思	馬	知	広	合
立	耳	地	引	前	林	花	雨
金	左	秋	古	品	元	汽	天
犬	右	南	玉	町	風	長	気
入	女	野	毛	黒	作	夏	車

先生と父母の方々へ

○この本は、日本語(3)の書き方学習用として、編集したものです。編集にあたっては、とくに次の点に留意しました。

○日本語(3)の学習と平行して使用するように、題材はすべて日本語(3)から採りました。

○書く能力を養うために、さしえを略し、書写の面積を多くしました。

○文字の正しい筆順、結体などを重視し、説明を加えました。

○字体は、できるかぎり教科書字体にし、学習の場合の不便と、混乱をさけるようにつとめました。

○この本の有効な利用により、進んで、正しく美しく、字が書けるように、さらに、いっそう適切な指導を望んでやみません。